



フェニックス

鏡西部小学校
学校だより No.7
文責 大住 和行

「人」とつながる 教えていただいたのは「やさしい気持ち」

10月18日(金)に、篠原利夫さんを講師として、「手話教室」を開催しました。本校で手話教室が始まったのは、十七年前のことだそうです。当時の養護教諭と篠原先生との出会いを契機にスタートしたそうです。それから、毎年、篠原先生は本校の子供たちに手話を教えるに来てくださいました。しかし、本校の閉校に伴い、今回が最後の手話教室となりました。



今年「ありがとうの花」という曲に合わせて、手話を教えてくださいました。事前に、私たち職員にも教えに来てくださったのですが、その際に、CDの曲はテンポが速くて、手話が追いつかないとおっしゃっていました。

そこで手話教室のときは、CDではなく、子供たちが歌うという形で進められました。子供たちは、CDよりもゆっくりとしたテンポで歌いながら手話を

しました。その様子を見てみると、手話に親しむと同時に、ご高齢になられている篠原先生を気遣う優しさを感じられました。また、篠原先生は、最後となる手話教室の時間をゆっくりかみしめていらっしゃるようでもありました。

「人」とつながる」うえで、言葉は大切で、その伝え方には声だけでなく文字もあります。手話もその一つです。大切なことは、相手のことを思いやって、相手に伝わる伝え方をしようとするのだと思います。十七年前に本校で手話教室が始まったのは「相手のことを思いやるこ



とのできる子どもを育てたい」との思いからだったのではないかと思います。

♪ ありがとうの花 ♪
ありがとうっていったら
みんながわらって
そのかおがうれしくて
なんどもありがとう

篠原先生の笑顔と子供たちの歌声を聴いていると、温かい思いが心に響く感じがしました。

「人」とつながる 鏡小との交流学習

11月1日に、全校児童で鏡小学校との交流学習を行いました。全員で鏡小に行くのは、7月に続いて2回目でした。左の写真は、一年生の交流学習の様子です。ふつうのありふれた授業風景ですが、本校の児童は、多くても一学年が6人なので、こんなに多くの同級生の中で授業を受けるのは、特別なことです。緊張したと思いますが、自分とは異なる意見を言ったり、行動をしたりする友達に出会うこと、その友達を理解したり、協力したりできるようになることは、子供たちの将来の自立に向けて大切な力となります。難しく言えば「他者を理解する力」「他者と協働する力」の育成です。本校の子供たちにとって、貴重な学びの場となりました。

